

様式第2（第9条関係）

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和7年 2月21日

犬 山 市 議 会
議 長 柴 田 浩 行 様

議員名 鈴木 伸太郎

下記のとおり、出張・調査の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和7年 2月 5日(水) ～ 2月 6日(木)
(2) 場 所	早稲田大学 神奈川県地方自治研究センター 他
(3) 形 態	会派 () : その他 (鈴木のみ)
(4) 内 容	① 草加市中央図書館 ② (株)Be-map ③ 横浜市国際交流協会 ④ 神奈川県地方自治研究センター ⑤ 川口市芝園団地 ⑥ 蕨駅周辺 ⑦ 早稲田大学日本橋キャンパス ⑧ (一財)道路管理センター ⑨ JOIN 移住交流情報センター 報告書別紙
(5) 成果・提言	報告書別紙



出張報告 令和7年2月5日（水）～2月6日（木）

早稲田大学マニフェスト研究所が開催する研修会参加に併せ、八潮市の下水道事故、横浜市の多文化共生の取り組みなどを調査した。

○草加市立中央図書館

人口250千人、面積27km²、東京都足立区に接するベッドタウン。八潮市とも接しており、消防は八潮市と共同で運営している。

今回の八潮市の事故は中川流域下水道の下流部で発生しており、処理区域内の人口は1,400千人と首都圏ならではの規模。上流部の市民生活への影響を調査した。

図書館では、新聞各紙（朝読毎、東京、埼玉）の2月の記事をチェック、水道利用の自粛を自治体が求めている記事とともに、具体的な暮らしへの影響の記事も多く掲載されていた。

公共施設では、温水プールや高齢者向けの温浴施設の休業、市民病院の資機材洗浄への工夫が挙げられるが、例えば給食の献立変更や食器洗浄の工夫などの記事は見られなかった。

逆に、飲食店がメニューを絞る工夫や洗い物を減らす工夫が紹介されていた。

図書館、駅前で5人ほどに声かけ、暮らしへの影響を聞き取り調査を行ったが、全員が「節水呼びかけの回覧は回ってきたが、生活での工夫は特になし」だった。地震のように自らが体験しないと、他人事のように思ってしまう危険を感じる。図書館には、節水の張り紙がしてあるが、目立つようにはなされていない。

※犬山市への提言

犬山市は管径が最大1.6M、最上流部で管の埋設深度もさほど深くない。地盤が固く、今回のような事故は発生しにくいですが、意識づけは必要。最近下水道の管更新、地域の縮小、利用料値上げなどがクローズアップされてきたが、それが具体的にどのように進められるか、いつまでに実施するのかはまだ未定。しかし、今回の事故を受けて、計画づくりを進めるよう提案していく。そして、事故等で下水道が利用できなくなった場合の対応、無関心でいいのか、市民への「事の重大さ」をもっと認知させ行動してもらう工夫が必要。そもそも、下水道の仕組み、自分たちが使った水がどこへ流れていくか等をもっと認知してもらうべき。

犬山市は五条川の右岸左岸で処理施設が違う。これを利点ととらえ、いざという時のバイパスづくりも提案していきたい。

○(株)Be-map /

IT系企業、東証上場で社長が犬山出身。全国の電鉄会社とITを活用したサービスを展開を始めているほか、アイドルグループのプロモーションにも強く、複合的に事業を展開している。

今回は、高齢者の足の確保として、コミュニティバスと鉄道の連携についての話を伺

った。

犬山は鉄道網が充実しており、コミュニティバス単独で走らせるより、鉄道と連携させる方が効率が良いのは明らか。Be-map の製品では、商業施設等が、買い物客の消費金額に応じて鉄道やバス料金の割引をすることが可能。

国土交通省が公募した、地域交通の維持、活性化に取り組む事業への補助メニューをご紹介いただいた。今までの事業者の枠を超えた新たな取り組みに対して有効。

観光客誘致に関して、駐車場問題や渋滞問題解決策として、鉄道利用を推進するためのメニューをご紹介いただいた。名鉄との連携を Be - map を通して実施することができるかも知れない。

切符という概念があまりない海外からの旅行者に対し、交通 QR チケットを発行し、空港から宿泊先まで Wi-Fi でつなぐ、新たな仕組みをご紹介いただいた。上記同様、観光公害対策にも有用。

アニメを活用した街おこし策として、高校や大学、観光地が「聖地」となるような作品を世に送り出し、国内外からの集客を図る提案をいただいた。犬山総合高校などは長い急坂があり、それら特殊な施設は逆にアピールポイントになりうる。

※犬山市への提言

高齢者の足の確保、観光公害対策など、次世代の交通政策として、この会社の取り組みは実現性が高い。すでに名鉄とのつながりもあり実績も持っている。犬山出身の社長でもあり、故郷への貢献意識も高い。何かひとつ事業を展開し、そこからさらに関係が深まるよう提案し自分自身も行動していく。

○横浜市国際交流協会 (YOKE) /

多文化共生でさまざまな先進的な取り組みをしている YOKE を訪問、以前 JIAM の研修で一緒させていただいた木村氏から話を伺った。

横浜市南区の南吉田小学校の事例で、運動会での多言語 (5 カ国) のアナウンス、地域交流活動としての餅つき大会、地域運動会などの手法を教えていただいた。一見ありきたりのイベントのようだが、市 (区) のかかわり方、多国籍メンバーによるサポート、町内会加入の有無の関係性排除、YOKE が取り組んでいる多文化共生団体の関与と、その OB の協力など、長い年月の積み重ねによる成果が見られた。

※犬山市への提言

川崎市横浜市は多文化共生事業の先進地域であり、ここの取り組みは参考になる。特に多文化共生団体の OB がサポーターとして手伝ってくれることは、犬山もモデルにすべき。また、町内会に関する決まりを撤廃していることも重要。犬山はまだまだ日本人側に高い壁があるように感じる。その壁を低くしていきたい。

○神奈川県地方自治研究センター 佐野先生

以前、地域公共交通について学ばせていただいた同センターを再訪、下水道の課題、多文化、交通事業者とまちづくり等、多岐にわたり意見交換させていただいた。

・八潮市の事故、下水道の仕組みからすると、設計時の構造にすでに問題があった。高低差で自然流下させるには無理があり、どこかに負担がかかる。

今回は接合部であるポイントが破損した。設計者の描く図面、維持管理する立場の思い、まちづくりに携わる立場の思い、それぞれ違い、今回はその差が事故につながった。

・まちづくりの研究者として、栃木市、富士宮市、リスボン他で実績を残した佐野先生から、さまざまなまちづくりの考え方を伺った。中でも、東急電鉄による田園都市線沿線の考え方、東横線沿線の考え方、小田急や京浜急行沿線の考え方の違いをご教示いただいた。それぞれ、不動産価値を落とさない、通勤通学の利便性、駅前保育園など、ビジョンを持ったまちづくりを電鉄会社とともに推進している。

・都市では、藤沢市の各地区まちづくりの考え方が参考になった。各地区で計画が異なり、特に辻堂周辺、湘南ライフタウンの方針や課題を伺った。町田と相模原の隣接自治体の考え方の違い、八王子の状況（特に学生）の動向も参考になった。

※犬山市への提言

名鉄の駅が多く、それぞれ特徴ある街が形成されている。総合計画のような総花的なまちづくりではなく、もっと細かく、それぞれの地域に合った街づくり計画を推進すべき。住民にとっての犬山の価値を再認識し、誇りを持ってもらう施策が必要。

○川口市芝園団地・JR 蕨駅周辺

二日目午前中、JR 蕨駅周辺と、駅から徒歩10分弱の川口市芝園団地を訪問した。

芝園団地は公団が運営している15～20階の高層マンションが15棟ほど立つ団地。住民の半数以上が外国籍。当日は平日午前中ということもあり、穏やかな空気が流れていた。掲示板、団地内にある川口市の地区センターにも、外国人とのトラブルを防ぐ、ごみ出しルールを伝えるポスターなどは見受けられなかった。公園では東アジアの言語で語り合う住民が散見され、状況は落ち着いていた。

次いで蕨駅周辺を歩いた。川口市蕨市は「ワラビスタン」と揶揄される、クルド人の不法滞在者が集まるエリアがあると聞いてきたが、駅の売店、通行する人に聞いても知らなかった。確かに、駅周辺には外国人と思われる人が多くいたが、集住している様子は見つからなかった。ワラビスタンとは、メディアの発信の影響と思われる。悪いイメージを植え付ける姿勢は良くない。蕨駅階段上部の広告で、中近東の民族料理の看板があった。総合すると、ワラビスタンは実体がなく、週末に集まる同郷の者たちがクローズアップされ、さらにそれが、ある意味観光資源になりつつある、と感じた。

※犬山市への提言

今回訪問したエリアは、マスコミ発で、マイナスイメージが先行している感じ。決してそうなることの無いような施策が大切。多文化共生に取り組んでいる我々も、まだまだ意識の変革が必要。

○研修「予算書チェックではまちづくりができない理由」／

昨年12月まで福岡市職員であった今村氏より、財政の講和を伺った。早稲田大学マニフェスト研究所主催の議員向け研修だったが、中身はどちらかというと職員向けで、ちょっと残念。

「財政が厳しい」とはどういう事か、予算策定時に一律シーリングをかけることの是非、扶助費の伸び、起債の考え方と公債費の考え方、基金を崩す際の注意点、スクラップが先ではなくビルドが先、「風が吹けば桶屋が儲かる」的な発想で、事業を計画し税収増を狙うのは間違い、移住定住促進より既存市民が暮らしやすいまちづくりが大切、等々の話を伺った。

1期目2期目くらいの議員に適した内容だと判断、ちょっと物足りない。

※犬山市への提言

シーリングをかけるとしたら、どのように実施するのか、今後注視していきたい。職員数が減り、税収も減る中、予算策定は大変だと思う。ではそうするか、という事で効率化やDX推進を提案してきた。今後も継続していきたい。

○元JIAM教授、現「道路管理センター」審議役、松藤先生／

JIAM 他でお世話になった松藤先生、現在は国土交通省の外郭団体、「道路管理センター」審議役をされており、短時間だが行政運営のお話を伺った。

- ・八潮の下水道事故を防ぐために「道路管理センター」を利用してほしい。
- ・下水道の維持管理、これからは大変。
- ・予算の策定には政治力が強く働く。
- ・愛知県の特性から犬山の暮らしやすさを考える。
- ・DXを推進しない自治体は生き残れない。

※犬山市への提言

通常の「視察」では気づかない、予算、DX、八潮の事故等、将来の犬山に必要な事を伺った。特にDX、下水道のコストの件は、これからも安定的な事業運営できるよう提言していく。

○JOIN 移住交流情報センター／

東京駅にある「JOIN 移住交流促進センター」を訪問、数年前も訪問しセンターの事業内容は把握していた。犬山市が今年度、有楽町にあるふるさと回帰センターと契約し、移住定住促進策を展開している中で、市の担当者にこのセンターのことを聞いたが知らなかった。組織改編で無くなったのか？の確認も含め、以前訪問した場所へ行ったら残っていた。再訪し、少しだけお話を伺った。

- ・事業は以前と変わらず。
- ・地下にミーティングスペースがあり、移住、Uターン等に関する会合等で利用可能。
- ・来年度、ふるさと回帰センターと合流し、同一の団体になる。

※犬山市への提言

アンテナを高くして、このような団体とも接触するよう提案する。

以上